

人口減少社会と
地方都市の活力再生

58

株式会社さくら都市総合研究所

主席 清水 秀幸
主研究員

筆者が特に着目したところは、午前10時から午後4時までの買い物時間帯に往き交う人の量である。

相対的にまず言えることは、その時間帯に

それでは、現在の新田町の様相はどうなのか。図1をご覧いただきたい。これは長野市がまとめた市内の中心市街地地点別歩行者量をグラフ化したものであり、特に善光寺表参道を軸に4つの地点のデータを出し、表示したものである。

とりわけ、善光寺周辺については、参拝者

が多数を占めていると推計されることから、その他3カ所とは来街者の質の点で同時比較は難しいと思われる

が、その他の3カ所については、市内（域内）からの来街者が大半であることを考慮すれば、長野駅前新田町

交差点の倍、権堂町界隈の3倍近い歩行者が往き交っていることになる。

特徴的なのは、駅前については、他の3カ所に比して夕方以降もそこに滞留し、回遊する歩行者の多さである。

確かに、同交差点周辺100m範囲には、飲食店が少ない。当社の調べでは、昼間時でも30店足らず、夜になるとその数は半減する。

それに比べ、長野駅周辺においては、南千歳界隈だけでも昼間時約40店、夜になると2

00店超となる。そこに善光寺口末広町に裾野を広げると、昼間時、夜間時ともその倍近くに膨れ上がる。

同交差点周辺は昼間人口においては、圧倒的に駅前を凌駕しているだけに、周辺の賑わいを創生していくうえで、来街者の滞留を前提とする商業店舗の誘導は欠かせない。

聞くところでは、同交差点周辺のオフィスには、1企業につき2〜3社のケータリング（顧客の指定する場所に料理を提供したり、会場の設営などを行うこと）業者が出入りし

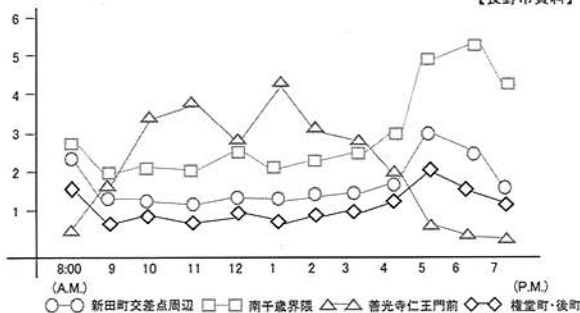
ているという。どちらが先かは別として、まちづくりという広義を前提とした場合、周辺企業を含めた意識改革と総意が求められる。

清水 秀幸氏（しみず・ひでゆき）1952年長野市生まれ、76年明治大学政経学部政治学科卒。2013年6月株式会社守谷商会役員を退任し、同年7

月株式会社さくら都市総合研究所を設立。長野市都市計画審議会専門委員ほか3委員、その他各地方自治体の審議員・部会員を兼任。現在同研究所社長

（千人） 図1 長野市中心市街地各所の時間帯別歩行者量（平成26年9月調査）

【長野市資料】



○新田町交差点周辺 □南千歳界隈 △善光寺仁王門前 ◇権堂町・後町